

研究協力をお願い

昭和大学藤が丘，江東豊洲病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

MCWDF0 冠状面骨切りの際に留意すべき大腿骨遠位骨形態について

1．研究の対象および研究対象期間

2018年1月1日から2022年12月31日に昭和大学藤が丘病院整形外科と江東豊洲病院で内側閉鎖式大腿骨遠位骨切り術の手術を行った患者さん

2．研究目的・方法

膝関節の中の大腿骨と脛骨間の外側関節に変形性変化を認め、かつ、大腿骨遠位骨形態の異常により、外反膝(X脚)が生じ、常に荷重時に大腿骨と脛骨間の外側関節部に負荷がかかり、疼痛が生じている患者さんへの一つの有効な手術術式として、内側閉鎖式大腿骨遠位骨切り術があります。これは、外反した大腿骨遠位を内側で楔型に切除し、正常な形態に戻し、荷重時に膝の大腿骨脛骨関節の中央部に荷重部を移動させ、外側関節の疼痛を改善する手術です。手術の際、大腿骨遠位の関節面から約5～10cmの部位を2面に骨切りするのですが、骨切りの方向や厚さに注意が必要です。厚さや方向が悪いと、術後成績にも影響があり、合併症の要因にもなります。また、大腿骨遠位骨形態は個体差があり、個体差の特徴を研究することで、より安全で良好な術後成績に寄与する成果、結果が得られると考えられます。

本研究の目的は、大腿骨遠位骨形態異常が要因の外反膝の患者さんに対し、内側閉鎖式大腿骨遠位骨切り術前の単純CTを用いて、個々の大腿骨遠位骨形態を評価、統計学的に計測し、形態のグループ分けをして、グループ形態により安全な骨切りの幅や方向を呈示することです。

3．研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから2025年3月31日まで

4．研究に用いる試料・情報の種類

術前計画に撮影した単純CTのみを用います。単純CTを解析ソフトを用いて、大腿骨遠位の骨形態を

個人を識別できる情報を削除し符号化して解析します。

5．外部への試料・情報の提供

該当しません。

6．研究組織

研究責任者 研究機関名 昭和大学江東豊洲病院 氏名 川島史義

7．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学藤が丘病院，江東豊洲病院

氏名：川島史義

住所：横浜市青葉区藤が丘 1 - 30

電話番号： 090-8850 - 9788